

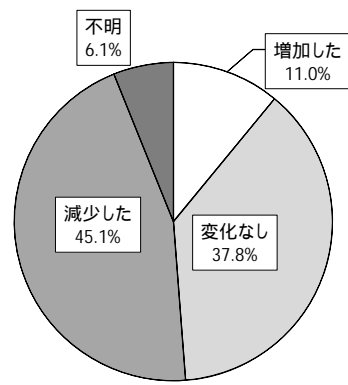
歯科会員アンケート結果

長野県保険医協会では、全国保険医団体連合会からの要請を受け、歯科会員アンケートを昨年9月に実施した。本調査はFAX登録のある歯科開業医会員(461名)に調査票を送り、83名の会員から回答を得た(回答率:18%)。今回、全国と長野県の結果を比較し結果を掲載する。

受診患者数「減少」が「増加」を大きく上回る

昨年の同時期(4~8月)と比較し、受診患者数の変化を聞いたところ、「増加した」が11%、「変化なし」が37.8%、「減少した」が45.1%であった。全国では、「増加した」が16%、「変化なし」が40%、「減少した」が40.9%であり、長野県や全国を見ても「増加した」と答えた会員が2割にも満たない一方、「減少した」と答えた会員が4割を超えた。また、同時期の請求点数の変化を聞いたところ、長野県では「増収になった」が15.9%、「変化なし」が39%、「減収になった」が42.7%であった。全国では「増収になった」が13.9%、「変化なし」が44.6%、「減収になった」が39.6%であり、受診患者数の減少同様約4割の会員が減収になったと感じている実態が明らかとなった。

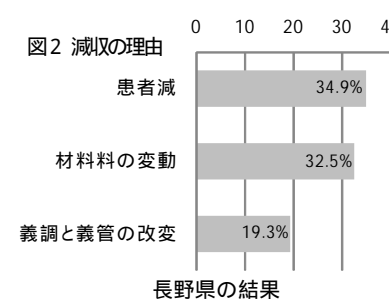
図1 受診患者数は2013年4月~8月分と比較し、変化がありましたか



増収の理由は患者増とCAD/CAM冠の保険導入

昨年の同時期と比較し「増収になった」理由を挙げてもらった結果、「患者の増加」と答えた会員が69.2%、「CAD/CAM冠の保険導入」が46.2%、「歯冠修復・欠損補綴」が30.8%と続いた。全国でもやはり増収の理由は「患者の増加」で66.9%、次に「CAD/CAM冠の保険導入」が23.1%であった。全国的に患者増での増収が約7割を占める結果となった。一方、「CAD/CAM冠の保険導入」が増収の理由と答えた会員の割合は、全国に比べ約2倍上回った。

減収の理由は「患者減」と「材料料の変動」



昨年の同時期と比較し「減収となった」理由を挙げてもらった結果、「患者の減少」と答えた会員が34.9%、「材料料の変動」が32.5%、「有床義歯調整管理料と義管の改変」が19.3%と続き、この三項目の理由が全体の9割近くを占めた。全国でも減収の一番大きな理由は「患者の減少」、続いて「材料料の変動」「有床義歯調整管理料と義管の改変」であり、全国的な傾向であることが分かった。

施設基準による医院格差拡大については反対が賛成を上回る

CAD/CAM冠をはじめ、各種の施設基準による医院の格差拡大について聞いたところ、「賛成」が15.9%、「反対」が32.9%と賛成が反対を上回った。しかし、50%の会員が「どちらともいえない」と答え、一概には答えられないことを示している。全国でも同様の傾向が見られた。

6割近くの会員が消費税増税の影響を実感

消費税8%増税の影響について聞いたところ、「影響があった」が59.8%、「影響はない」が18.3%、「分からない」が17.1%となり、約6割の会員が増税の影響を実感していることが分かった。この結果を討議した歯科部会では「3月に損税の総額が分かると消費税増税の影響が分かるだろう」という意見が出され、今後も注視が必要である。

「診療報酬の引き上げ」と「患者窓口負担の引き下げ」を求める

最後に厳しい経営状況を打開するための方策について聞いたところ、制度に求める対策は「診療報酬の引き上げ」が26.6%、「患者窓口負担の引き下げ」が25.7%、「新規技術の導入」が10.1%と続いた。全国でも「診療報酬の引き上げ」と「患者窓口負担の引き下げ」が挙げられたが、その次に「自費診療の拡大」が続いた。医院個人の対策として、「経費節減」が33.1%、「自費診療を増やす」が16.6%、「過去の受診者への働きかけ」が16.6%と続いた。今後も「診療報酬の引き上げ」と「患者窓口負担の引き下げ」を強く求めていく必要がある。

ボランティアに参加して in 福島県葛尾村仮設住宅

2014年11月10日月曜日、福島県葛尾村仮設住宅に坂城ライオンズクラブの呼びかけでボランティアに参加しました。日曜日の夜11時にマイクロバス1台、ワゴン車2台、物資を積んだ2トン車1台で出発し、翌日一日診療して夜の11時に帰ってくるという強行軍でした。参加者は私を含めてライオンズクラブから9名、一般参加者が22名合計31名でした。活動内容は学校のグラウンドの草取り、草刈り、豚汁にごはんの提供、坂城町の山村弘町長を中心にしたお楽しみ隊、そして歯科治療の5班編成でした。こちらに避難している皆さんは総勢で72名ですが、この日は平日ということもあって半数近くの皆さんは仕事で出ていましたので避難所に残っている450名に豚汁を食べてもらいました。450人分を提供するのですから、担当された皆さんは天気に恵まれたと言っても前夜からの強行軍で大変だったと思います。

私は歯科治療班で、歯科衛生士の宮入香さんと受付を担当してくれた小諸市にある社会福祉法人青葉会やまびこ園理事長佐藤正雄先生の3人でもっぱら義歯の修理と調整に当たりました。驚いたことに震災後3年もたったのに、今まで訪問した歯科医は検診するのみで治療はしなかったそうです。この日も最初は検診だけではないかと思って集会場に来なかったのだそうです。そのためか最初の患者さんが集会場に来てくれたのは30分以上たってからでした。私に来ることは事前に連絡してありましたので、「ここの患者さんは恵まれているのだろう」と思っていました。私たちが不必要なことが一番いいのです。

最初の患者さんは76歳の女性で、「最近新しい入れ歯を作ったが重苦し

くて、“おえっ”となるので、古いほうを使っている」ということでした。見るといかにも年代物で修理の跡だらけでした。噛んでもらうと、前歯があたり簡単に外れてしまいます。「落ちないようにペロで押し付けながら噛んでいる」ということでした。そこで上の歯の粘膜面は適合が甘くなって汚れが残っていましたので、リベースをして奥歯で噛めるように調整すると、「落ちない」と目を輝かせ、「うそのようだ」と嬉しそうにつぶやいていました。

次は82歳の女性で、「硬いものが噛めない」という主訴でした。下の顎には左右の犬歯と左側の第一大臼歯の3本が残っているので噛めないはずがありません。先ほどと同じ前噛みでした。治した先生を聞くと前の患者さんと同じ先生でした。上の入れ歯の裏打ちをした後で、かみ合わせを調整すると驚いたように「普通に噛める、うーんと軽くなった」と喜んでいました。

3人目の76歳の患者さんは新しい入れ歯を持ってきましたので、かみ合わせと発音テストをして調整すると嬉しそうに、「うちの主人も診て欲しい」ということになりました。

4人目は80歳の女性で、「下あごが痛くて噛めない」という主訴でした。フィットチェッカーで調べながら平均的に当たるように調整、痛みが出なくなるのを確認してから噛んでもらうと、前噛みで上の歯が落ちてしまいました。咬合調整を終えると、「前とは違う、しっかり噛める」と喜んでくれました。

5人目85歳の男性は、「何も問題は感じていないが診て欲しい」ということでした。しかし噛み合わせでもらうと、咬合に問題がありましたので、調整すると臼歯でしっかり噛めるようになり、「軽くなった。これなら固いものが噛める」と喜んでくれました。

こうして15名の患者さんを見ましたが、全て噛み合わせが問題でした。この問題は被災されたからではありません。日常の診療から起因している問題です。高齢者はいつ、どこで通院できなくなるかわかりません。最近では異常気象から各地で災害が多発しています。いつ被害を受けて避難しなければならないかわかりません。その時生きる力を振り絞れるのは自分の口で食べることです。私たちが「もっと基本に忠実」にやらないと不幸な人を次々に作ってしまうのではないかと反省させられました。

(常任理事 林 春二)



仮設住宅での歯科治療の様子